

## 平成22年3月期 第1四半期決算短信

平成21年7月31日

上場会社名 富士紡ホールディングス株式会社  
 コード番号 3104 URL <http://www.fujiibo.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 中野 光雄  
 問合せ先責任者 (役職名) 専務執行役員 (氏名) 三木 康史  
 四半期報告書提出予定日 平成21年8月11日  
 配当支払開始予定日 —

上場取引所 東大

TEL 03-3665-7612

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成22年3月期第1四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年6月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第1四半期	7,476	△29.3	327	△62.1	319	△59.1	149	△62.5
21年3月期第1四半期	10,576	—	864	—	779	—	399	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第1四半期	1.41	—
21年3月期第1四半期	3.71	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第1四半期	43,531	11,845	27.1	111.07
21年3月期	44,733	11,814	26.3	110.82

(参考) 自己資本 22年3月期第1四半期 11,801百万円 21年3月期 11,775百万円

## 2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	0.00	—	2.00	2.00
22年3月期	—	—	—	—	—
22年3月期 (予想)	—	—	—	—	—

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

現時点では22年3月期の配当予想額は未定とさせていただきます。

## 3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は通期は対前期、第2四半期連結累計期間は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期 連結累計期間	15,000	△29.9	800	△56.8	650	△62.0	250	23.1	2.35
通期	32,000	△16.2	2,000	△26.1	1,700	△25.6	700	88.5	6.59

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注) 詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他 をご覧下さい。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 22年3月期第1四半期 108,000,000株 21年3月期 108,000,000株

② 期末自己株式数 22年3月期第1四半期 1,746,867株 21年3月期 1,743,707株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 22年3月期第1四半期 106,254,520株 21年3月期第1四半期 107,785,418株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 平成22年3月期の配当については、当該期及び今後の業績を勘案して総合的に決定することとしており、予想額の開示が可能となった時点で速やかに開示することいたします。

2. 本資料に記載されている業績予想に関する記述は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後さまざまな要因によって予想数値と異なる場合があります。なお、業績予想に関する事項につきましては、4ページ【定性的情報・財務諸表等】 3. 連結業績予想に関する定性的情報をご覧下さい。

## ・定性的情報・財務諸表等

## 1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期におけるわが国経済は、製造業での在庫調整が進み、一部で生産や輸出に改善の兆しが見えるものの、昨年後半からの急速な景気悪化の影響は根強く、企業収益が悪化するもとで、設備投資の減少や雇用情勢の悪化に伴う個人消費の低下傾向など、依然、先行き不透明な厳しい状況で推移しました。

このような経営環境の下、当フジボウグループは、一部用途で受注が戻りつつある超精密加工用研磨材の研磨材事業と、順調に推移している機能化学品及び医薬中間体などの受託製造の化学工業品事業を中心に、収益力の改善、強化に努めました。一方、繊維事業においては、前期より引き続き構造改革を進めたものの、国内外個人消費悪化に伴う最終繊維製品低迷の影響が繊維素材に波及し、大幅な減収・減益となりました。

この結果、当第1四半期の連結売上高は7,476百万円(前年同期比3,100百万円、29.3%の減収)で、営業利益は327百万円(前年同期比537百万円、62.1%の減益)、経常利益は319百万円(前年同期比460百万円、59.1%の減益)となりました。また四半期純利益は、法人税、住民税及び事業税等を調整後149百万円(前年同期比249百万円、62.5%の減益)となりました。

事業の種類別セグメントの業績は以下の通りであります。

## ①繊維事業

製品事業の主要ブランドであるB. V. D. ®では、シーズン性のある機能インナーは順調に推移したものの、消費低迷の影響により定番商品で減収となりました。

紡績部門、テキスタイル部門は、低採算品の価格改定や不採算分野からの撤退を進める一方、新製品の開発、新規ユーザーの獲得に取り組んだものの、百貨店他高級ゾーン向け最終繊維製品の消費低迷の影響が予想以上に大きく、追加コストダウン施策も受注減少をカバーできず、苦戦しました。

この結果、売上高は前年同期比1,399百万円(26.8%)減収の3,823百万円となり、営業損益は291百万円減益の121百万円の損失となりました。

## ②研磨材事業

主力の超精密加工用研磨材は、主要ユーザーの生産調整の影響を受け、大幅な受注減少となり厳しいスタートとなりましたが、月を追うごとに液晶ガラス用途、半導体デバイス用途(CMP)が復調しました。しかし、4月、5月の落ち込みが大きく影響し、前年同期の水準までの回復には至りませんでした。

この結果、売上高は前年同期比280百万円(13.9%)減収の1,737百万円となり、営業利益は194百万円(36.2%)減益の342百万円となりました。

## ③化学工業品事業

機能化学品及び医薬中間体などの受託製造は、一部電材用途品、特殊用途品で受注減となったものの、医薬・農薬中間体が順調に推移しました。

この結果、売上高は前年同期比29百万円(2.7%)増収の1,136百万円となり、営業利益は2百万円(1.9%)増益の116百万円となりました。

## ④その他事業

自動車関連部門は、主要販売先であるカリブ海周辺諸国市場の良化の兆しが見えず、引き続き苦戦しました。精製部門、電子機器製品の産業用プリント基板及び化成品も、自動車・電機関係他国内主要ユーザーの生産調整の影響を受け、それぞれ苦戦が続きました。

この結果、売上高は前年同期比1,449百万円(65.0%)減収の778百万円となり、営業損益は55百万円減益の18百万円の損失となりました。

なお、「自動車関連事業」は金額的重要性が低下したため、当第1四半期から「その他事業」に含めて表示しております。また、前年同期比較にあたっては、前第1四半期を変更後の区分に組み替えて行っております。

## 2. 連結財政状態に関する定性的情報

## (資産)

流動資産は前連結会計年度末に比べて7.2%減少し、16,470百万円となりました。これは、現金及び預金が1,299百万円減少したことなどによります。固定資産は前連結会計年度末に比べて0.3%増加し、27,061百万円となりました。

この結果、総資産は前連結会計年度末に比べて2.7%減少し、43,531百万円となりました。

## (負債)

流動負債は前連結会計年度末に比べて8.2%減少し、17,459百万円となりました。これは、支払手形及び買掛金が775百万円、未払法人税等が385百万円、引当金が246百万円、その他が148百万円それぞれ減少したことなどによります。固定負債は前連結会計年度末に比べて2.4%増加し、14,226百万円となりました。

この結果、負債合計は前連結会計年度末に比べて3.7%減少し、31,686百万円となりました。

## (純資産)

純資産合計は前連結会計年度末に比べて0.3%増加し、11,845百万円となりました。これは、利益剰余金が配当の実施等により32百万円減少しましたが、評価換算差額等が59百万円増加したことによります。

## 3. 連結業績予想に関する定性的情報

経済危機の影響により厳しい環境が続く、売上高は、繊維事業及びその他事業で苦戦を強いられておりますが、液晶ガラス用途を主力とする研磨材事業は受注が順調に回復し、合計では当初発表数値を若干ながら上回る見通しです。利益面では、個人消費悪化に伴う需要低迷が続く中、繊維素材の採算が悪化している反面、研磨材事業の稼働率の改善とコスト削減などにより、予想利益を上回る見通しです。これらの状況を勘案し、第2四半期連結累計期間及び通期の売上高、営業利益、経常利益、四半期(当期)純利益をそれぞれ上方修正いたしました。

なお、上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は今後さまざまな要因によって異なる可能性があります。

## 4. その他

## (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

該当事項はありません。

## (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

## ①一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第1四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しております。

## ②固定資産の減価償却費の算定方法

固定資産の年度中の取得、売却又は除却等の見積りを考慮した予算に基づく年間償却予定額を期間按分する方法によっております。

なお、定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

## (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5. 【四半期連結財務諸表】  
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成21年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,121	5,421
受取手形及び売掛金	7,148	7,011
商品及び製品	2,617	2,593
仕掛品	1,292	1,282
原材料及び貯蔵品	731	739
その他	569	709
貸倒引当金	△11	△11
流動資産合計	16,470	17,746
固定資産		
有形固定資産		
土地	15,843	15,874
その他(純額)	9,713	9,680
有形固定資産合計	25,557	25,555
無形固定資産		
投資その他の資産	155	151
その他	1,368	1,304
貸倒引当金	△20	△23
投資その他の資産合計	1,348	1,280
固定資産合計	27,061	26,987
資産合計	43,531	44,733
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,033	4,808
短期借入金	11,570	11,582
未払法人税等	79	464
引当金	270	517
その他	1,505	1,654
流動負債合計	17,459	19,028
固定負債		
長期借入金	6,031	5,966
退職給付引当金	2,828	2,897
引当金	7	8
その他	5,357	5,017
固定負債合計	14,226	13,890
負債合計	31,686	32,919

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成21年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	5,400	5,400
資本剰余金	0	0
利益剰余金	3,942	3,974
自己株式	△133	△133
株主資本合計	9,208	9,241
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	33	△19
繰延ヘッジ損益	△1	3
土地再評価差額金	2,522	2,552
為替換算調整勘定	39	△3
評価・換算差額等合計	2,593	2,534
少数株主持分	43	38
純資産合計	11,845	11,814
負債純資産合計	43,531	44,733

(2) 【四半期連結損益計算書】  
【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)
売上高	10,576	7,476
売上原価	7,814	5,338
売上総利益	2,762	2,138
販売費及び一般管理費	1,897	1,810
営業利益	864	327
営業外収益		
受取利息	3	0
受取配当金	10	10
固定資産賃貸料	10	44
補助金収入	—	39
その他	27	28
営業外収益合計	52	123
営業外費用		
支払利息	98	80
その他	38	51
営業外費用合計	137	132
経常利益	779	319
特別利益		
貸倒引当金戻入額	—	3
固定資産売却益	1	0
投資有価証券売却益	9	0
特別利益合計	11	4
特別損失		
固定資産処分損	31	5
減損損失	—	50
たな卸資産評価損	55	—
特別損失合計	86	56
税金等調整前四半期純利益	703	267
法人税、住民税及び事業税	125	58
法人税等調整額	173	56
法人税等合計	299	115
少数株主利益	4	1
四半期純利益	399	149

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	703	267
減価償却費	266	321
減損損失	—	50
貸倒引当金の増減額(△は減少)	0	△3
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△69	△68
受取利息及び受取配当金	△13	△11
支払利息	98	80
為替差損益(△は益)	22	△19
投資有価証券売却損益(△は益)	△9	△0
固定資産売却損益(△は益)	△1	△0
固定資産処分損益(△は益)	31	5
売上債権の増減額(△は増加)	647	△135
たな卸資産の増減額(△は増加)	102	△7
仕入債務の増減額(△は減少)	△393	△446
その他	△1,006	37
小計	378	68
利息及び配当金の受取額	13	11
利息の支払額	△78	△54
法人税等の支払額	△247	△487
営業活動によるキャッシュ・フロー	65	△461
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形及び無形固定資産の取得による支出	△620	△732
有形及び無形固定資産の売却による収入	2	4
有形固定資産の除却による支出	—	△0
投資有価証券の取得による支出	△2	△2
投資有価証券の売却による収入	17	27
貸付金の回収による収入	0	16
投資活動によるキャッシュ・フロー	△603	△687
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	650	153
長期借入れによる収入	—	300
長期借入金の返済による支出	△393	△399
自己株式の取得による支出	—	△0
配当金の支払額	△215	△212
リース債務の返済による支出	—	△6
その他	△0	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	41	△166
現金及び現金同等物に係る換算差額	△77	15
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△574	△1,299
現金及び現金同等物の期首残高	5,949	5,420
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,375	4,121



## (4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項なし。

## (5) セグメント情報

## 【事業の種類別セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日)

	繊維事業 (百万円)	研磨材 事業 (百万円)	化学 工業品 事業 (百万円)	自動車 関連事業 (百万円)	その他 事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高								
(1) 外部顧客に 対する売上高	5,222	2,018	1,107	1,519	709	10,576	—	10,576
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	1	0	—	—	9	11	(11)	—
計	5,224	2,018	1,107	1,519	718	10,588	(11)	10,576
営業利益	170	536	114	25	11	858	5	864

## (注) ① 事業区分の方法

当社の事業区分の方法は、製品等の種類に応じて繊維事業、研磨材事業、化学工業品事業、自動車関連事業、その他事業にセグメンテーションしている。

なお、当第1四半期連結会計期間より、セグメント名称を不織布事業から研磨材事業に名称変更している。事業実態により適したセグメント名称への変更であり、セグメント区分に変更はない。

## ② 各区分に属する主要な製品等の名称

これら事業区分に属する主要な製品等は次の通りである。

事業区分	主要製品名等
繊維	紡績糸、織物、編物、二次製品
研磨材	超精密加工用研磨材、不織布、合皮
化学工業品	化学工業製品
自動車関連	車輛、自動車部品
その他	電子機器製品、化成品、ボウリング場の経営

## ③ 会計方針の変更

(棚卸資産の評価に関する会計基準)

「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準委員会 平成18年7月5日 企業会計基準第9号)を当第1四半期連結会計期間から適用し、評価基準については、原価法から原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)に変更している。この結果、従来と同一の方法を採用した場合と比較して、営業利益が「繊維事業」で45百万円、「研磨材事業」で0百万円、「その他事業」で4百万円それぞれ減少している。

(リース取引に関する会計基準)

「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準委員会 平成5年6月17日 最終改正平成19年3月30日 企業会計基準第13号)及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準委員会 平成6年1月18日 最終改正平成19年3月30日 企業会計基準適用指針第16号)を当第1四半期連結会計期間から早期に適用し、所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理から通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理に変更し、リース資産として計上している。また、リース資産の減価償却の方法は、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零として算定する方法によっている。

なお、リース取引開始日が適用初年度前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を引き続き採用している。

この結果、従来と同一の方法を採用した場合と比較して、営業利益に与える影響は軽微である。

## ④ 追加情報

当社及び国内連結子会社は、平成20年度の法人税法の改正を機に、当第1四半期連結会計期間より有形固定資産の耐用年数の見直しを実施している。

この結果、従来と同一の方法を採用した場合と比較して、営業利益が「繊維事業」で1百万円減少し、「研磨材事業」で3百万円、「化学工業品事業」で5百万円それぞれ増加している。

当第1四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)

	繊維事業 (百万円)	研磨材 事業 (百万円)	化学 工業品 事業 (百万円)	その他 事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に 対する売上高	3,823	1,737	1,136	778	7,476	—	7,476
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	1	0	—	12	14	(14)	—
計	3,824	1,737	1,136	791	7,491	(14)	7,476
営業利益又は営業損失(△)	△121	342	116	△18	319	8	327

## (注) ① 事業区分の方法

当社の事業区分の方法は、製品等の種類に応じて繊維事業、研磨材事業、化学工業品事業、その他事業にセグメンテーションしている。

## ② 事業区分の変更

前第1四半期連結累計期間において区分掲記していた「自動車関連事業」は金額的重要性が低下したため、当第1四半期連結累計期間より「その他事業」に含めて表示している。

なお、当第1四半期連結累計期間の「その他事業」に含まれる「自動車関連事業」の売上高は375百万円、営業損失は11百万円である。

## ③ 各区分に属する主要な製品等の名称

これら事業区分に属する主要な製品等は次の通りである。

事業区分	主要製品名等
繊維	紡績糸、織物、編物、二次製品
研磨材	超精密加工用研磨材、不織布、合皮
化学工業品	化学工業製品
その他	車輛、自動車部品、電子機器製品、化成品、ボウリング場の経営

## 【所在地別セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日)

本邦の売上高は、全セグメントの売上高の合計額に占める割合が90%超であるため、所在地別セグメント情報の記載を省略している。

当第1四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)

本邦の売上高は、全セグメントの売上高の合計額に占める割合が90%超であるため、所在地別セグメント情報の記載を省略している。

## 【海外売上高】

前第1四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日)

	中南米	その他の地域	計
I 海外売上高(百万円)	1,519	444	1,963
II 連結売上高(百万円)	—	—	10,576
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	14.4	4.2	18.6

(注) ①国又は地域の区分は、地理的近接度によっている。

②本邦以外の区分に属する主な国又は地域

中南米・・・ドミニカ、トリニダード・トバゴ

その他の地域・・・タイ、アメリカ

③海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高である。

当第1四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)

	中南米	その他の地域	計
I 海外売上高(百万円)	424	335	760
II 連結売上高(百万円)	—	—	7,476
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	5.7	4.5	10.2

(注) ①国又は地域の区分は、地理的近接度によっている。

②本邦以外の区分に属する主な国又は地域

中南米・・・ドミニカ、トリニダード・トバゴ

その他の地域・・・アメリカ、タイ

③海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高である。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項なし。

## 6. その他の情報

## 生産、受注及び販売の状況

## (1) 生産実績

当第1四半期連結累計期間における生産実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次の通りである。

事業の種類別セグメントの名称	金額(百万円)	前年同四半期比(%)
繊維事業	2,306	△30.4
研磨材事業	1,859	△8.3
化学工業品事業	1,136	6.1
その他事業	221	△53.6
合計	5,525	△19.8

(注) 1 金額は販売価格によっており、セグメント間の取引については消去していない。

2 上記の金額には、消費税等は含まれていない。

## (2) 受注実績

当第1四半期連結累計期間における受注実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次の通りである。

事業の種類別セグメントの名称	受注高(百万円)	前年同四半期比(%)	受注残高(百万円)	前年同四半期比(%)
研磨材事業	1,996	0.2	718	5.9
化学工業品事業	506	44.8	1,718	5.0
その他事業	175	△34.1	33	△65.6

(注) 1 セグメント間の取引については消去していない。

2 上記の金額には、消費税等は含まれていない。

## (3) 販売実績

当第1四半期連結累計期間における販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次の通りである。

事業の種類別セグメントの名称	金額(百万円)	前年同四半期比(%)
繊維事業	3,823	△26.8
研磨材事業	1,737	△13.9
化学工業品事業	1,136	2.7
その他事業	778	△65.0
合計	7,476	△29.3

(注) 1 セグメント間の取引については消去している。

2 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次の通りである。

相手先	前第1四半期連結累計期間		当第1四半期連結累計期間	
	販売高(百万円)	割合(%)	販売高(百万円)	割合(%)
住友商事ケミカル㈱	—	—	768	10.3

(注) 前第1四半期連結累計期間については、当該割合が100分の10未満のため記載を省略している。

3 上記の金額には、消費税等は含まれていない。

4 「自動車関連事業」は金額的重要性が低下したため、当第1四半期連結累計期間から「その他事業」に含めて表示している。また、前年同四半期比較にあたっては、前第1四半期連結累計期間を変更後の区分に組み替えて行っている。